

## 非行防止教室

# 人生の金メダルを目指して

講師：山下 泰裕 氏

12月20日(火)、ロス五輪(1984年)柔道無差別級金メダリストとして知られる山下泰裕氏(現東海大学理事・副学長)をお迎えして、講演会を行いました。学生時代(東海大学)の先輩である本校柔道部顧問の駒井先生とは親交があり、そのご縁で講演が実現しました。

日本の柔道界の第一人者として、輝かしい経歴を持つ山下氏ですが、少年時代は「周りに迷惑ばかりかけている悪童だった(山下氏談)」そうです。今の自分があるのは柔道と出会ったからで、柔道を通して自分は夢を持つことができたとおっしゃいました。

泰裕少年にとって、柔道との出会いは、人生の方向を決める素晴らしい出会いだったのです。



素晴らしい出会いには人生を変える力がある。



山下少年の夢は、オリンピックで金メダルを獲ることでした。柔道の素晴らしさを人々に伝えることでした。柔道選手として早くに頭角を現し、実力を発揮してきたものの、大きな怪我やモスクワ五輪(1980年)不参加など、ロス五輪での金メダル獲得までには順調な歩みではありませんでした。逆境にあっても、夢を持ち続けたことが金メダルに結びついたので。「夢を持つことが大切だ。諦めずに続けることが大切なんだ。」と語る言葉には、柔道に懸けた熱い思いが感じられました。

夢を持とう。夢を叶えたいなら、諦めずに続けることだ。

選手から指導者となった山下先生は、ある選手を「やる気のない奴」と決めつけていました。その選手は、柔道に真摯に取り組んでいるにも拘(かか)わらず、試合に出場することもかなわず、夢を萎(しぼ)ませていました。日の当たる場所ばかりを歩んできた山下氏には、そんな選手たちの気持ちがわかりませんでした。「私は、彼らの気持ちを知らうともしませんでした(山下氏談)」と当時を振り返りました。あるときに、やる気がないと思っていた選手の素晴らしい行動を知り、そのことを褒めました。先生が掛けた一言の言葉で、彼は見違えるような選手になったそうです。同じ柔道を志し、夢を持って取り組んでいた選手たちに、自分は何もしてこなかった、と山下先生は大いに自分を恥じたのでした。「相手を認めること、モチベーションを上げてやることこそ指導者である自分のしなければならない事だった。人にはそれぞれの輝きがある。十人いれば十色の輝きがある。」ことに初めて気づいたと語ります。でも、気づくことに遅すぎるということはないのです。

人の輝きは十人十色。それぞれの良さを知ることが大切だ。

柔道では礼儀を重んじます。スポーツの基本はフェアプレーです。フェアプレーの精神は相手への敬意に通じます。大変残念なことですが、現在、「いじめ」が大きな社会問題になっています。山下氏は「フェアプレーの精神は、スポーツに限らずに日常生活の中でも発揮されるべき」と訴えます。山下氏は、いじめ防止運動に取り組み『日常生活の中でフェアプレー』を提唱しました。いじめのない社会の実現に尽力しています。

日常生活の中で、フェアプレーの精神を発揮しよう!

山下氏は、自身の人生の軌跡を柔和な表情で語り続けました。その言葉は生徒の心にしっかりと届いたに違いありません。川高生にとって山下氏との出会いは、忘れることの出来ない出会いとなりました。何十年かの将来、この日の講話を聞いた生徒たちの胸に、それぞれの思いを込めた金メダルが輝いていることを願いました。

